

事業者排出量削減計画書 (新規・変更)

(あて先) 京都府知事		平成18年		
住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)		氏名(法人にあっては、名称及び代表者の氏名。記名押印又は署名)		
大阪府東大阪市岩田町2丁目3番1号		タツタ電線株式会社 代表取締役社長 藤江 修		
		電話 06 - 6721 -		
京都府地球温暖化対策条例第18条第1項(第18条第2項、第18条第3項)の規定により提出します。				
特定事業者の主たる業種	電線・ケーブル、光ファイバケーブルおよびその付属品の製造、販売			
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者(大規模エネルギー使用事業者(原油に換算して1,500キロリットル以上)) <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者(大規模運送事業者(トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上)) <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者(その他の温室効果ガスの大規模排出事業者(二酸化炭素に換算して3,000トン以上))			
計画期間	平成18年4月 ~ 平成20年3月			
基本方針	生産設備、空調等に関するエネルギーの削減、3R(Reduce, Reuse, Recycle)の推進により、電力使用量1.0%、および産業廃棄物排出量1.0%の削減を行う。			
推進体制	福知山工場長を中心に、環境マネジメントシステムを継続的に実施・改善する。			
年度ごとの具体的な取組及び措置	年度	設備、対象、工程等	計画内容	
	18~19	製造部門	設備の小型化、付帯設備の運転見直し、生産効率の向上等により電力量1.0%削減	
	18~19	事務所部門	不要電源のOFF、冷暖房機器の温度の適正化等により電力量1.0%削減	
	18~19	全部門	3R物品の拡大	
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度(実績) (17)年度 (二酸化炭素換算(t))	目標年度(計画) (19)年度 (二酸化炭素換算(t))	削減率 (計画) (%)
	A 事業所等排出区分	3,213 t	3181 t	-1.0 %
	B 輸送車両排出区分	t	t	%
	C その他排出区分	t	t	%
	排出合計	*1 3,213 t	*2 3,181 t	-1.0 %
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度(計画)		
		取組量等	(二酸化炭素換算(t))	
	森林の保全及び整備	(整備面積) ha	(吸収量) t	
	府内産の木材の利用	(利用量) m <sup>3</sup>	(削減量) t	
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(発電量) kwh	(削減量) t	
		(熱供給量) GJ	(削減量) t	
	グリーン電力の購入	(購入量) kwh	(削減量) t	
削減量等合計		*3 t		
差引排出量 (排出合計-削減等合計)	基準年度(実績)	目標年度(計画)	削減率(計画)	
	*1 3213 t	(*)-(*) 3181.0 t	-1.0 %	
特記事項	1. 当社福知山工場では、2000年度以降部署単位で年度目標を定め消費エネルギーの削減、産業廃棄物の排出量の削減に取り組んでいます。 2. ①具体的項目としては、コンプレッサの分散化、②冷却ポンプの小型化、③クリーニングタワーの共有化等設備能力の適正化を行ってきました。 3. これらにより2005年度は前年比2.2%の電力量の削減を行うことができました。 4. また、産業廃棄物としていた、ポリエチレン・ビニル等のリサイクル、梱包材料のリユースも行っております。			
連絡先	担当部署			
	担当者氏名			
	住所			
	電話番号			
	ファクシミリ番号			

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。  
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。  
 3 「事業所等排出区分」とは、京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは、自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは、上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。  
 4 「特記事項」には、平成2年度(1990年度)を基準とした排出量の対比やエネルギー原単位CO<sub>2</sub>排出量、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。